

# 国営宮古土地改良



完工式で挨拶する若林事務次官( 当時 )

一、國營宮古土地改良事業完工式

式典では、国、公団、県・市町村から挨拶、祝辞等があり、小山沖縄総合振興局も多数の関係者出席のもと盛大に挙行されました。

事務局長は、「宮古島有史以来とも言える水利用農業の展開が可能となり、地域の歴史が塗り替えられる」とは誠に感慨深い」と式辞を述べ、続いて、沖縄開発庁長官（若林沖縄開発事務次官代読）から「このよくな新しい試みによる農業用水を、適切な維持管理により有効かつ効率的に活用され、地域の益々の繁栄につながることを確信して」「る」と挨拶がありました。

最後に「謝辞の中で仲間町古土地改良区理事長(城辺町長)が『この歴史的かつ壮大な水利施設の機能を最大に生かし、地域産業の振興に寄与すべく全力を傾注していく所存である。』との地元の決意が述べられ、式典は盛余のうちに閉会いたしました。

## 一、事業概要

本事業は「水無し農業」からの脱却を図るため、平良市外一町一村の受益面積八千百六十㌶の煙地川流域からなる。

二、事業概要

本事業は「水無し農業」からの脱却を図るため、平良市外一町一村の受益面積八千百六十㌶の煙地に改めかんが一を行つものであります。

これにてよほ千せつ心配がなくなり、収量の高位安定と品質の向上を図ることも、新しく水を使つた収益性の高い作物及び優良品種の導入が可能になります。

農業用水は、地下ダム等流域から取水施設(取水ポンプ)によって揚水され、ポンプで送水され、自然圧・加圧で用水路(パイプライン)を通じて畠まで配水、畠地かんがい施設(スプリンクラー等)により各畠に散水される。

なお、県営事業と団体営事業は末端の畠地かんがい施設とほ場整備を実施します。

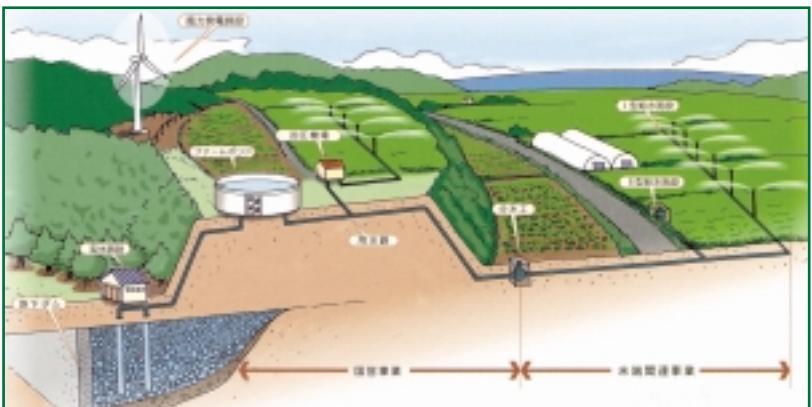
（Jのため、国営事業では、仲原及び  
皆福流域の取水施設（取水ポンプ）と  
ファームポンド六箇所、用水路（パイプ  
ライン）百三十四㌔、水管理施設等の  
基幹施設を造成し、国営事業初の國  
力発電施設もモーテル的に導入しま  
た。また、公団営事業では、砂川及び  
福里地下ダム取水施設を含む。）を  
建設しました。



完工式で式辞を述べる小山局長(当時)

主要工事計画

施設		名 称	概 要			
用 水 路	送水路 幹支線水路	形 式 管水路	管 径	200~1,000mm	延 長	L=25km
		"		150~1,200mm	L=109km	
	計					L=134km
加 压 機 場	東山第2加压機場 来間島加压機場	主ポンプ 150mm×2台 200mm×2台	保圧ポンプ 50mm×1台 65mm×1台	形式 満浴巻 渦浴巻	実揚程 11.5m 41.0m	
フ ア ーム ボ ン ド	野原岳ファームボンド 東山ファームボンド ミクリ峰ファームボンド 仲尾峰ファームボンド ピンフ岳ファームボンド 来間島ファームボンド	有効容量 29,300m <sup>3</sup>	内 径 73.5m	高さ 6.9m	形 式 円形PCタンク	
		30,800m <sup>3</sup>	60.0m	10.9m	"	
		9,900m <sup>3</sup>	34.0m	11.0m	"	
		43,800m <sup>3</sup>	65.0m	13.2m	"	
		21,200m <sup>3</sup>	52.0m	10.0m	"	
		2,330m <sup>3</sup>	24.4m	5.0m	"	
水 管 理 施 設	中央管理所 TC-TM施設 他	一 式				



事業経過

- 昭和46年3月～9月 宮古島大干ばつ(185日間の降水量162mm)

昭和47～48年度 宮古島農業用水調査

昭和51年10月 八重山宮古総合農業開発調査事務所宮古支所開所

昭和52年10月

～54年3月 皆福実験地下ダム施工

昭和55年4月 国営土地改良事業直轄調査宮古地区調査開始

昭和59～61年度 国営宮古地区全体実施設計

昭和62年9月 国営宮古土地改良事業施行申請

昭和62年10月 沖縄総合事務局宮古農業水利事業所開所

昭和63年3月 国営宮古土地改良事業計画決定

平成2年2月 国営宮古土地改良事業変更計画確定

平成2年2月 農用地整備公団宮古地下ダム事業所開所

平成4年7月 東山ファームボンド通水式

平成5年7月 散水式

平成5年11月 砂川地下ダム止水壁締め切り完了

平成8年3月 全ファームボンド完成

平成10年12月 福里地下ダム止水壁締め切り完了

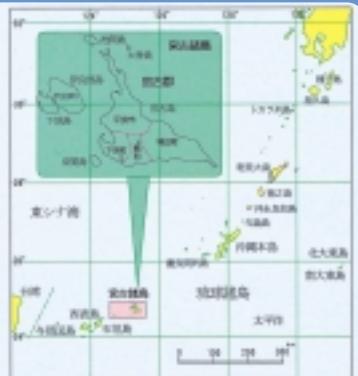
平成12年3月 風力発電施設本体完成

平成12年11月 事業完工式

平成13年3月 事業完了

宮古農業水利事業概要圖

### ＜水路とかんがい地区＞



三、事業經緯

昭和四十六年三月十五日から百八十五日間の降水量が百六十二mmと  
いう大干ばつによって、農作物が壊滅的な被害を受けたことが、本事業実施への契機となりました。

本土復帰直後からの農業用水確保のための調査では、昭和五十四年の皆福実験地下ダムの成功により、世界に例のない大規模地下ダムの基礎技術が確立されました。

## 四、水無し農業からの脱却に向けて

いのじが、昭和五十五年度からの国営高古地区調査、その後三ヶ月の全体実施設計を経て昭和六十一年十月の本事業着手に繋がりました。平成元年度には、本事業の早期完成を目指す目的等から、砂川及び福里地下ダムの施工を農用地整備公団(現・緑資源公団)に継続し、以後、本事業体制で推進してまいりました。

事業着工以来十四年、一部地域では既に造成施設が利活用されて水への不安が解消され、さとつきびの生産性向上の実証、野菜や熱帯果樹の導入等、様々な「水利用農業」が実践されています。

今後は、本事業の成果発現に向け、関連事業の鋭意進捗とともに、水利用技術の研鑽等により、宮古島の特性を活かした農業が一層発展していくことが大いに期待されます。



風力発電施設